

一冊の本との出会い

宮 本 富 夫

(高松大学 名誉教授)



小学四年生であつたと思う。義理の叔母からある雑誌の別冊号をいただく。母の実家ではじめてお会いした彼女が、「本を買ってあげよう」と。本を買ってもらうのは生まれてはじめて。子ども心にとっても楽しみだった。

その頃の私は漫画に熱中。漫画だったらしいのになあと内心思っていた。期待ははずれ、科学や技術の発見・発明について書かれた活字いっぱいの本。この分野でエポックとなる発見・発明について小学生向けに書かれていた。漫画でないのに惹き込まれるように読み進める。ダイムラーによる自動車、ディーゼルエンジン、飛行船ツェッペリン号、グーテンベルクによる活版印

刷等々、いくつかが心に残る。発明がなされた国ドイツへの思いも。漫画の世界から活字の世界へ、科学の世界へ、そして外の国へ。

その後、図書室にあつた本を手当たり次第に読む。高校入学前、トルストイ著『光あるうちに光の中を歩め』と出合う。高校からの配慮だった。この本をきっかけに、トルストイの著作に興味をもつ。『アンナ・カレニナ』の主人公アンナの自由奔放な生き方。本人がコントロールすることのできない心の奥に潜む何か。その何かによって振り回されるアンナ。人の生き方について考えさせられる。『戦争と平和』に描かれる人たち。理想と現実の狭間

で思い悩み、その答えを見出せぬままに生きる人。一方で「神様の思し召し」と悟り、全てを受け入れて心静かに生きる一人の農夫カラターエフ。彼の生き方に妙に心惹かれる。

大学でシヨウジョウバエと出合う。シヨウジョウバエとの付き合いは四十年に及ぶ。発見を目指し、論文読みと実験。活字から情報を得、アイデアを考える。ハエ(HA)のおかげか、cy abroadがかなう。カルガリー大学(カナダ)とマインツ大学(ドイツ)で研究生活を過ごす機会をえる。

週末、誘われるように足を運んだロッキーの山々。荒々しく雄大な岩山と優しく美しい湖。そして山麓に広がる針葉樹の森。へなるだけ自然に手を加えない、(「自然の推移に委ねる」とする、カナダ国立公園における自然との付き合い方を知る。雄大な自然、冬の厳しい寒さがもたらす氷とグレイシャーの世界。冬のゴーストレイクは車の乗り入れが可能だった。そのような自然を巧みに生き抜く木々と野生の

動物たち。エルク、マウンテンゴート、そしてビーバーと出合う。いきものの営みのしなやかさとたくましさを知る。自然のあるべき姿について考えさせられる。週末を、ロッキーの自然の営みの中に身を置くカルガリーの人たち。自然のリズムに波長を合わせ、日常の生活で見失いがちとなる人間性を取り戻しているかのように見えた。

マインツ大学の正式名は、Johannes Gutenberg Universität Mainz。地元の人々はただJGUと呼ぶ。キャンパスにグーテンベルクの胸像が鎮座する。グーテンベルク博物館を訪ね、マインツがグーテンベルクの生地であること知る。導かれたのだろうか。ご縁の不思議さ、感じる。

マインツの友人は自分の車（ベントツ）を、メルセデスと呼んでいた。メルセデスは、自動車を発明したダイムラーのお嬢さんの名前だという。彼によると、メルセデスに乗ることは社会的なステータスを意味すると。一般市民はフォルクスワーゲンかオーペ

ルを選ぶと。念願のドイツで生活することが実現し、シュツットガルトのメルセデス・ベントツ博物館を訪ねることがかなう。発明から最先端まで、自動車の歴史を学ぶ。レーシングカーを目の当たりにする。そこには昭和天皇の御料車が大切に保管されていた。小学生の時に抱いた夢のひとつがかなえられ、感無量。三十年の時が流れていた。思い続けていると、早い遅いはあるかもしれないが、願いはかなえられると知る。

さすが、自動車が発明された国、機械でできることは、機械に任せる。技術の開発と利用が徹底しているように思えた。ゴミ箱を機械装置でもちあげ、人力による作業を抑えたゴミ収集のシステム。人がゴミ収集車にゴミ袋を投げ入れるといったことはしない。土木工事でも機械操作を優先する作業が徹底していた。かたや、ポストマンは郵便物を入れたバッグを肩にかけ、歩いて配達するのが常だった。機械に任せる一方で、人の手を借りるにふさ

わしいところは人の手で。その頃合いが興味深かった。

職を離れ、稲作を中心に自然の営みに沿う農業を模索する。家のすぐ北側の田を人手に任せて欲しくないという母の願い。百年を超え耕されてきた我が家の田んぼ。試行錯誤しながら続けてきた稲作に少し本格的に取り組み、できるだけ農業の類を使わずに。

農家に生まれ、活字の世界を知り、活字の世界に生きてきたが、自然に優しい稲作と野菜づくりを目指すことに。ようやくのこと、本来の生き方にたどり着いたのかもしれない。農夫カラターエフが語る「神様の思し召し」を思う。一冊の本との出会い、導かれるように、ご縁を得て展開されていた私の歩み。神様の思し召し、それとも偶然の出来事の積み重ねだったのだろうか。知る由もない。心静かな時をもてる日々に感謝。落ち着くべきところに辿り着いたのだろう。義理の叔母をはじめ、ご縁をえた方々に感謝。

ほろ酔い詩歌紀行

続・狂歌師列伝

日 高 昭 二

(神奈川大学名誉教授)



前回に続いて、狂歌師たちの酒の歌を読んでみよう。

狂歌師たちの酒の歌は、風景や行事などさまざまな場面にのぞんで、酒を飲む心根の可笑しさや切なさを、技巧を凝らして表すという特色がある。

その技巧としては、縁語、掛け詞など、和歌がつかってきいた用法を駆使することはいうまでもないが、ときには故事にわたる教養をこれでもかと得意がる向きもないではない。だから、狂歌師たちの歌を読むには、こちら側にもそれにしかと向き合う姿勢が求められる。

たとえば、次の「節松嫁々」の歌もそうである。

十六夜月

かたぶけしきのふの酒の二日酔

そらにいさよふ盃の影

これは十五夜の月見という行事をふまえて詠まれた歌である。そこで飲んだ酒の二日酔いがまだ残っているが、十六夜の今宵もまた月見の酒であるという。格別技巧を凝らした歌ではないが、「そらにいさよふ盃の影」という表現が、放埒な二日酔いをこえて、何やら美しく、ゆかしく聞こえてくるから面白い。

作者の節松は、同じく狂歌師の朱樂漢江の妻であるが、夫の放埒な生活ぶりを知る者にとっては、二日酔いの当事者が誰であるかは、すぐに分かったであろう。

次は「矢張棟梁」という作者の歌

で、これまた月の行事にかかわる酒の景色である。

九月九日

此酒をのむはそくさいえんめいが

そのふる事ときくの盃

「そくさいえんめい」は息災延命のこと。九月九日は陽の数である九が重なる「重陽の節句」で、その日に菊酒を飲むと命がのびるとされていた。菊酒はその重陽の節句に用いる酒で、菊の花を浸して飲んだともいう。日本人の月と菊と酒との深いかかわりが見て取れるが、お月見という行事が半ば失われている近頃は、その行事にことよせて息災延命を切実に祈ったという人々の心も見失いがちである。

もちろん、そうした行事を迎える人々の心とともに、それを「ふる事」として「聞く」こともまた、失われているだろう。「ふる事」とは、たとえば菊慈童（きくじどう）からむ故事のことである。中国の周の穆王（ぼくわう）の侍童であつた菊慈童は南陽郡に流されたが、その地で菊の露を飲んで七百歳の長寿を保った、また不老不死となつたと言われている。古典芸能の一つ、能の演目としてもよく知られている。

それから「菊水」という言葉もある。菊の露が川にしたり落ちて、水辺に住む者がその甘い水を飲めば、長命になるというのである。そうした故事を「聞く」ことを、「菊の盃」にかけた歌である。酒の銘柄には菊の文字が多いが、これも菊水、菊酒、菊慈童などの「ふる事」と重ねてみれば、納得がいく。

「ふる事」は日本の神話を題材にすることもある。「武士八十氏」の次の歌がそうである。

久しくあはざりける山田氏にいなだ
といへる肴にて酒すゝむるとて今もつ
て酒はやまたのおろちなら出す肴もい
なだ姫ぞや

一首の背景に、あの『古事記』に出てくるスサノオノミコトとイナダヒメ（櫛名田姫）との神話があることは明らかであろう。出雲国に追放となつたスサノオは、足名椎・手名椎の娘のイナダヒメが、やまたのおろち（八岐大蛇）に襲われるという危難を救つて妃にしたという話である。やまたのおろちは、頭と尾が八つにわかれていてという大蛇で、スサノオは酒樽に強い酒を用意させ、おろちがそれを飲んで眠つたところを退治したという。

その「やまたのおろち」のように、今でも大酒を飲むことをやめない自分が、たまたま「山田氏」から「いなだ」つまり鰯（いわし）の幼魚を肴に酒をすすめられた。それを受けて、山田＝八岐大蛇、いなだ＝いなだ姫という神話の趣向に出たというわけである。語の響き

を重ねた技巧のさえに、どうだと言わんばかりの作者の得意な顔が浮かぶようだ。

趣向は、狂歌師の腕のみせどころである。凝つたものもあれば、それ程でもないものもある。しかし趣向がなければ、狂歌の面白さはぐんとさがる。次の「柳直成」の歌は、さてどうであらうか。

寄酒恋

とつくりと語る間も夏の夜にはや
さんずいのとりぞなくなる

「とつくり」は「十分に」という意味だが、それに酒器の「徳利」がかけである。しかし夏の夜だから、語ることも、飲む時間も短い。「さんずいのとり」は、むろん「酒」のことだが、水鳥の意味もある。そこで「なくなる」に「鳴く」と「無くなる」をかけてみたというわけである。趣向というより、ただ酒が無くなったことを嘆いているようにも思われる。

ウィーンで開催されていた二十一世紀ジャポニズム展

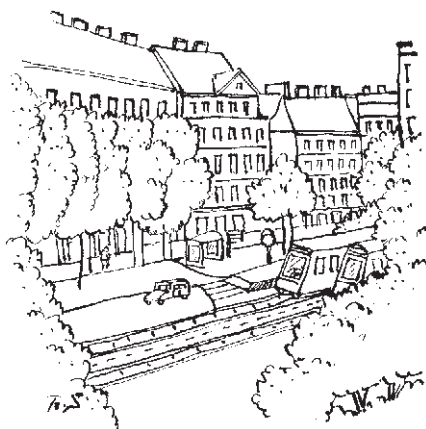
さかもと ふ さ

(型絵染版画家、エディター
イラストレーター)

十月中旬に六日間の短い滞在であったが、来年ウィーンで九月に開催する型絵染アートの展覧会とワークショップの打ち合わせにいつてきた。

仕事は順調に進み、オペラ座の近くのギャラリー・バイ・デア・オバーで展覧会、世界博物館と日本大使館でワークショップを行う。九月一ヶ月滞在する。これは日本とオーストリア修好一五〇周年の行事の一環である。

ウィーンの寒さはジャケットにレンコートを羽織る程度であった。ウィーンの街に落ち葉が風に吹かれてカラカラと音をたてて舞っていた。日一日と木々の葉が色づき、秋の色が濃くなっていた。冬の到来が間近だと感じた。仕事の合間に「クンストフォーラム」ヘジャポニズム展を見にいった。ヨーロッパの画家に影響を与えたアーティストの展示だ。日本の浮世絵や型紙から影響を受けたモネ、ゴッホ、クリムト、ボナール、ロートレック、ウィーン工房のコロマン、ホフマン等、浮世絵を参考にして描いた画家の作品もあった。この展覧会は二十世紀ジャポニズムの復活で、昔の日本の素晴らしさを取り上げた展覧会ですが、二十一世紀は日本から新しく影響をうけることがないでしょう。過去の歴史に触れることも大切ですが、現代の日本文化の紹介も重要ではないでしょうか。



マルクスの不倫（中）



池 田 一 貴

五

小池南冥は「東啓大学文学部准教授」という現在の立場に居心地の悪さを感じていた。准教授という肩書が不満なわけではない。順調にいけばあと五年以内には教授になれるだろう。

決まった恋人（というより婚約者）がいるが、彼女から結婚を催促されることもない。自立した女性だ。だから教授という地位や収入を焦る必要もない。彼女は画家で、基本的には実力で評価される世界にいるから、男の肩書などに頓着しないのである。

にもかかわらず、なんとなく、居心地が悪い。ひとつにはこの大学の文学部教授会の超保守的な体質に我慢ならないことがある。もはや一般社会では死語になっている「進歩的文化人」とか「社会主義者」とかいう印籠を腰にぶら下げている教授連がまだここには多数棲息しているのだ。進歩的ではなく超保守的なのに、それを自覚していない。ネットやバイトで社会の風に当たっている学生たちのほうが、よほどましである。

視界の隅に、この授業を見学（見物？）している他学科の老教授の姿が映ったので、つい雑念を生じた。

いや講義中だぞ、と自分を叱咤し、雑念停止。

すると、この大教室のほぼ真ん中の席に、見慣れたベレー帽の女性がニコニコ顔で座っているのではない。里美しの、婚約者である。

あつ、しの！ と声が出そうになった。いつのまに、あんな正面の席に……。

「と……えと、えいと、どこまで話しましたっけ。ああ、マルクスの不倫の相手は、メイドのヘレーネ・デムートだった、というところまで話しましたよね」

「先生、大丈夫ですかあ？ 不倫がバレたみたいには大汗かいてますよ」

また、どっと笑いが起こった。

「……いや、あの、頭の中で、年次をね、たどつていたんですよ。何年に赤ちゃんが生まれたか、ということだね」

「えっ、じゃあ、不倫の結果、赤ちゃんが生まれたんですか？ マルクスの赤ちゃんが……」

「そうです」

「ひえーっ、マルクスやるじゃん！」

「資本論を書いた厳^{いかに}しい学者先生じゃなくて、そこらへんのスケベ親爺と変わりねえじゃん。すげー、エロ親爺マルクス！」

「みんな、ちょっと待てよ。これは陰謀だぞ。マルクスの評判を落とすために仕組まれた嘘だと

昔から言われてるんだ！」

「共産労働党はひっこめ！」

……みなさん、ちょっと落ち着いて。

いいですか。ヘレーネ・デムートに男の赤ちゃんが産まれたのは一八五一年六月でした。その三か月前の三月には、マルクスの妻イエニーも女児を産みました。つまり、一九五一年の年初から春にかけて、マルクス家の二部屋の狭いアパートには、二人の妊婦が大きなお腹をかかえて生活していたわけです。ちょっと滑稽というか悲惨というか……。なにより、その両方の原因をつくったマルクスはいたたまれなかったでしょうね。

「ヘレーネが産んだ男児はエンゲルスの子だと言われています。絶対そうです」

「バヨク、見苦しいぞ！」

……なるほど、エンゲルス父親説は当初からありました。エンゲルス自身も一時は認めていました。なぜなら、その当時、労働運動・社会主義運動は各派がしのぎをけずり、それはもう主導権争いが半端でなく激しかったからです。主なものだけでもブルードン派、バクーニン派、ラサール派、マルクス派と入り乱れていた。マルクス派はセクトの一つに過ぎなかったのです。むしろマルクスの他派に対する仮借ない悪口雑言が響^{ひびく}感を

い、大衆的な人気はイマイチでした。

そんなときに、マルクス派の代表人物マルクスが不倫の子をつくったとなれば、他派からの批判や中傷が集中し、組織が弱体化する恐れがあった。それまで、マルクスは敵が少しでも弱みを見せたら、もう聞くに堪えないほどの誹謗中傷の嵐を浴びせかけたのだから、そのお返しは何倍にもなつて帰ってくると思われたのです。不倫の子の出生を知ったマルクス支持者の中には「もうマルクスは終わった」と嘆く人すらいました。

だから、エンゲルスもマルクスをかばうため、またマルクス夫妻の亀裂を防ぐため、仕方なく自分の子だという嘘を引き受けるしかなかったのです。とくにマルクスとエンゲルスの側近のような立場にいたカール・カウツキーは政治的利害を優先し、それを強く主張しました。

しかし子を持ったことのないエンゲルスが赤ちゃんを育てられるわけではないので、ルイスという労働者夫婦に里子に出されることに……。この男児はフレデリック・デムート、愛称フレディと呼ばれました。マルクスは頬かむりしたまま息子の存在を無視。だからフレディはマルクスの娘たちのような良い教育環境に恵まれず、長じて一介の旋盤工にしかありませんでした。

六

「先生、いまウィキペディアを見たら、『フレディ当人は自分がマルクスの子であるとは最後まで知らなかった』と書いてありますが」

……ああ、ウィキペディアというのはネット上の百科事典としてたいへん便利ですが、一〇〇パーセントの信用は置けません。その部分もまさにそうです。それはフランシス・ウィーン著『カール・マルクスの生涯』という本を参考にしている記事でしょうね。あれはたくさんあるマルクス伝記のひとつではありますが。

ほかに、有名なE・H・カールの『カール・マルクス』、F・メーリングの『マルクス伝』、W・ブルームンベルクの『マルクス』、D・マクレランの『マルクス伝』、M・ウルフソンの『ユダヤ人マルクス』、J・スパーバーの『マルクス』など何種類もの本格的な伝記があります。加えて、マルクス夫人伝も数種類。

なかでも、不倫の子の父親問題に特化した本として、『Karl Marx is my father わが父カール・マルクス』という本があります。ドイツ語・英語・日本語（ごく一部にロシア語）で書かれた本です。その中にフレディの手紙があります。原文は英語ですね。フレディは英国で生まれ育ったわ

けですから、母語は英語です。日本語訳も付いています。

この手紙は、六十一歳のフレディがロンドンの病院に入院中に、ジャン・ロンゲ（マルクスの長女ジェニーの長男。つまり腹違いの姉の息子で、フレディの甥にあたる）宛てに一九一二年四月に書いたもので、こういうくどいがあります。

《文明化した世界の社会主義者がこぞってドイツでの社会民主党のすごい勝利を喜んでいる時に、一体どれだけの人間が、大マルクスの息子がロンドンの病院に横たわって生死の間をさまよっているのを知っているだろうか》と。

この年一月のドイツ帝国議会選挙で社会民主党が一一〇議席を占め、最大党派となりました。社会民主党は事実上の共産党です。またこの手紙にいう「大マルクスの息子」とはフレディ自身のことですね。つまり、フレディは自分がマルクスの息子だという事実を知っていたのです。ジャンの母であるジェニーも当然知っていました。

そうした一連の事実を彼は生前の実母ヘレーネから聞いていたでしょうし、またエンゲルスからも聞いていたでしょう。カウツキーは社会民主党の新聞論説に「フレディとエンゲルスは会ったことがない」と書いていますが嘘です。マルクスの

死後、老いたヘレーネはエンゲルス家のメイドに雇われました。成人したフレディは二週間ごとに実母に会いに行き、その際、エンゲルスとも語り合ったことを手紙に書いています。

しかしカウツキーのような政治主義者や、のちのソ連の指導者、とくにスターリンらは、フレディ関係資料を筐底深く秘してしまいました。あ、ごめんなさい。筐底というのは箱の底という意味です。耳で聞いただけでは判りにくいですね。

七

「あのう……先生、話を巻き戻すようで申し訳ありませんが、……あの、二部屋しかないアパートで、しかもマルクス夫妻、三人の子供たち、そしてメイドのヘレーネという家族構成の中で、マルクスは一体どうやって不倫を実行したんでしょうか？ 私にはまだ謎なんです……」女子学生からの真面目な質問である。

……ああ、そうか。そこらへんは飛ばしちゃった感じですね。ごめんなさい。戻りましょう。

じつは簡単な話なんです。一八五〇年に、妻イエニーは借金を申し込むためにオランダへ旅立ちます。一人旅です。このとき彼女はすでに妊娠していたものと思われまふ。まだ妊娠初期で目立

たなかったでしょうが。

この妻の不在期間中に、マルクスはせっせと不倫にはげんだと推測されます。その結果、翌年三月に妻が女兒を出産、六月にメイドが男児を出産した、というわけです。種を明かせば、なんら謎でもマジックでもないことが分かります。

それよりむしろ、マルクス研究者のなかには、わずかに二間のアパートに大人三人、子供三人がいる平常時に、マルクス夫妻がどうやって次々と子供をつくったか、そちらを疑問とするひともいます。なにしろ、この夫婦は計六人の子を生んだのですから。不幸にも三人は夭折しましたが。当時の幼児死亡率は非常に高かったので、貴族でも六人や七人の子を産むのは当然でした。ヴィクトリア女王に至っては九人（四男五女）もの子を産んでいます。

マルクス家では、一説によれば、メイドが気をきかせて子供らを連れ出し、一、二時間いない間に、夫妻は「昼のいとなみ」に勤しんだのではないかと、という話もありますが、マルクス研究もここまでくると、ほかに研究テーマはないんかい？と言いたくなりますね。まあ、私も他人のこととはとやかく言えません。

あ、それから、マルクスとエンゲルスの容姿と

いうか、外見上のことにちよつと触れておきます。エンゲルスには逮捕状が出たことがあつて、書類に身長が五フィート八インチと書いてあります。メートル法に換算すると約一七三センチですね。写真にみるスリムでハンサムな外見からすると、楽に一八〇センチを超えているかとも思えるんですが、意外と低いですね。マルクスはエンゲルスと並んだ写真では五センチ以上低く見えるずんぐりタイプで、まあ一六五センチ前後かなと推測されます。十九世紀の白人は意外と小さかったようです。ついでに言えばマルクスは、次女ラウラの夫つまり娘婿で医師のポール・ラファルゲの観察によると、胴長短足でした。

同じ白人でも、マルクスはユダヤ人で、肌が浅黒い。マルクスの愛称「モール」はムーア人という意味で、ベルベル人とも呼ばれます。ベルベル人はコーケイジャン（Caucasian）すなわち白人種ですが、北アフリカに住み、肌が浅黒いため一段低く見られたようです。しかし、女優の沢尻エリカのお母さんのように、ほとんど白人としか見えない人も多いですね。あ、はい。一度会ったことがあります。

前にもちよつと触れましたが、マルクスは十九世紀の白人にありがちな黒人差別の意識がとて

強い人でした。まあ自分の肌が浅黒いという劣等感の裏返しで、黒人を貶^{けな}すことが多かったのかもしれませんけど。同じユダヤ人で、哲学者で社会主義者という、共通点の多いラサールを、陰では「ユダヤのニガー（黒んぼ）」と呼んだり、娘婿のラファルグを「黒人によくある羞恥心の欠如」という欠点をもつ男」と卑しんだり、どうも捻^ねじ曲がった精神が垣間見えますねマルクスには。

過去、マルクス主義者や左翼系の学者・研究者が、マルクスを理想化しすぎて、実像がまったく見えなくなるほど歪めてきたため、本当のことが言いにくい状況になりました。本当のことを言うと、そんなマルクスは信じられん！と反発する高齢者が多いんですよ。

若いみなさんは「マルクス信仰」に惑わされないよう、事実だけを見つけてくださいな。

八

この日の小池南冥の講義はおおむね好評だったといつてよい。最初は不倫説に抗議していた共産労働党の党員学生も、しまいには静かになった。

聴講生でもないのに大教室のど真ん中で授業を聴いていた婚約者の里美しのは、授業が終わると軽やかに駆け下りてきて、「おもしろかった！」

という。そういえば、学生でない聴講者の顔もちらほら見えていたから、一部の暇な教員も聴講していたのだろう。授業への出欠は学生の自主性にゆだねているので、逆に非聴講生でも「来る者は拒まず」が小池の方針である。

しのは「帰りに食事しよ」と研究室までついてきた。そこへ小池の携帯が鳴る。極左組織・中革派の大幹部、中山清秋から電話である。中山からの電話はいつも唐突で、その日に会えないかといってくることが多い。この電話もそうだった。

「時間を調整して、折り返しご返事します」

そう答えてから、しのは顔を見た。

「お仕事ならそちらを優先していいわよ。お友達なら私にも紹介して」

仕事ではないが、友達でもない。ちょっと危ない人なんだ、と中山の組織上の肩書を教えた。革命的共産主義労働同盟中央革命派・中央軍事委員会議長だと。

「まあ、長つたらしい肩書！」

「うん。この中革派はよく知られているように、革プロ派と激しい対立抗争を繰り返している。両方とも内ゲバ殺人で有名なセクトだよ」

「昔、聞いたことがあるわ」

「今も対立は収まっていない。革プロ派は、革

命的共産主義労働同盟革命的プロレタリア派の略称なんだ。中革派の場合、中央軍事委員会議長というのは、わかりやすくいうと内ゲバ部隊（つまり殺人部隊）の隊長という意味らしい」

「あらま、アブナイひと！」

「ね」

結局、のちのちの安全のためにも中山清秋には里美しのを紹介しないことにした。ただし、しのがどうしても「ヒトゴロシの顔が見たい」と言い張るので、待ち合わせ場所の喫茶店に二人で早めに行つて、中山が来たら入れ違いに、しのだけ先に帰る、ということにした。画家として、殺人者の顔を見ておきたい、というのだ。言い出したら聞かない頑固さがある。

新宿の喫茶店で中山を待つ間、しのが授業中の小さなハプニングを話した。隣に座っていた女子学生からこんな質問を受けたという。

「仮に、大学卒業後に仕事に就くことが絶対の義務だとします。仕事は生涯、変更できません。違反したら終身刑です。就活に出遅れたあなたには、もはや三つの仕事しか残されていません。哲学者と詩人と政治家の三つです。さあ、あなたはどれを選びますか？」と。

「なんじゃ、そりゃ？」

「うふふ。私すぐに意味がわかつちやつた」

（つづく）



(表紙説明)

■屋嶋城(やしまのき)

今からさかのぼること約一三五〇年前に中大兄皇子が築いた屋嶋城は、発見の端緒から約十七年の歳月を経て、その正体をようやく現しました。往時の姿をよみがえらせるため、平成十九年度から高松市が進めてきた屋嶋城跡城門遺構保存整備事業は十年近くの歳月をかけ、平成二十八年三月に城壁、城門のみならず、屋島の歴史と自然を満喫していただける空間づくりが完成。延長約五〇m、高さ約六mを超えてそびえたつ屋嶋城の城壁の迫力を体感できます。

所在地／香川県高松市屋島東町屋島山上

(山上駐車場から徒歩約十〜十五分)

TEL／〇八七―八二三―二七一四

(高松市埋蔵文化財センター)

平日の八時半〜十七時十五分)

「酒林」随筆特集 第九十七号
平成三十一年一月一日発行
発行人 西 野 信 也
印刷所 株式会社 太陽社
発行所 西野金陵株式会社
高松市紺屋町九番地六号
高松大同生命ビル八階

万一乱丁・落丁がありましたら、ご一報下さい。

西野金陵株式会社



■酒類部各事業所

〔本 店〕
〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町623番地 ☎0877-73-4133
〔高 松 本 社〕
〒760-8544 香川県高松市紺屋町9番地6 高松大同生命ビル8F ☎087-826-4133
〔高 松 支 店〕
〒760-0064 香川県高松市朝日新町33-40 ☎087-851-4133
〔土庄営業所〕
〒761-4121 香川県小豆郡土庄町測崎甲545-1 ☎0879-62-0101
〔丸亀支店〕
〒763-0083 香川県丸亀市土器町北1-70 ☎0877-23-4133
〔徳島支店〕
〒770-0944 徳島県徳島市南昭和町3-53-4 ☎088-653-4133
〔松山支店〕
〒790-0925 愛媛県松山市鷹子町546-1 ☎089-975-4133
〔岡山支店〕
〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田錦564-209 ☎086-296-2136
〔洲本支店〕
〒656-0012 兵庫県洲本市宇山3-5-28 ☎0799-22-0788
〔大阪営業所〕
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町1-6-9 ☎06-6262-4133
〔東京営業所〕
〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-9-4 西野金陵ビル9F ☎03-5543-4133
〔観音寺物流センター〕
〒769-1613 香川県観音寺市大野原町花稲1071-1 ☎0875-56-3133
〔多度津工場〕
〒764-0028 香川県仲多度郡多度津町葛原1880 ☎0877-33-4133
〔琴平工場〕
〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町623番地 ☎0877-73-4133
〔金 陵 の 郷〕
〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町623番地 ☎0877-73-4133

■化学品事業部各事業所

〔大阪本社〕
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町1-6-9 ☎06-6262-2444
〔大阪支店〕
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町1-6-9 ☎06-6262-2447
〔東京支店〕
〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-9-4 西野金陵ビル9F ☎03-3552-3427
〔名古屋支店〕
〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-26-13 ちとせビル5F ☎052-561-5531
〔北陸営業所〕
〒918-8231 福井県福井市問屋町3-815 和中ビル1F ☎0776-24-0967

〔上海西野貿易有限公司〕
中国上海浦東外高橋保稅区基隆路6号 ☎+86-21-6278-9548

〔NISHINO KINRYO (THAILAND) CO., LTD.〕
159/40 Serm-Mitr Tower 26th Fl. Room No. 2606, Sukhumvit 21 (Asoke) Rd. Kwaeng
klongtoey-Nua, Khet Wattana, Bangkok 10110
☎+66-2-661-7014

〔PT. NISHINO KINRYO INDONESIA〕
Sampoerna Strategic Square South Tower Level 30 Room No.6 Jl Jend.
Sudirman Kav 45-46, Jakarta 12930 INDONESIA
☎+62-21-2993-0822



西野金陵株式会社

四国・琴平